



研究室紹介

文学部 文化財学科

SUGIYAMA Tomoaki

杉山 智昭 教授

北海道生まれ。弘前大学理学部生物学科卒業、東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻博士後期課程修了、博士(文化財)。北海道立林産試験場研究職員、北海道開拓記念館学芸員、北海道博物館学芸員を経て、2021年本学着任。近年の論文に「奈良県立民俗博物館所蔵コレクションの継承にむけた活動-奈良地方へのこされた民具を守り伝えることの社会的意義-」(『奈良県立民俗博物館研究紀要』25:19-26,2025年)ほかがある。

文化財を守り伝える

私の専門は保存科学と博物館学です。文化財を守り伝えていくためには、科学にもとづいた調査研究が欠かせません。まず、文化財が今どのような状態にあるのか、あるいは、それが置かれている環境は適切なのか、ということについて知る必要があるのです。例としてX線CTスキャナ(三次元のレントゲン装置)を用いて文化財を壊さずにその内部を調査することや、特殊な機器を用いて文化財表面に存在する目に見えないカビや木造建築を腐らせる菌類の活動を早い段階で見つけ出すような研究を続けています。また、学生と一緒に県内外の博物館、社寺に出かけて、資料整理や環境調査など、実地での研究をととした社会貢献活動にも取り組んでいます。

「モノ」と「ヒト」との出会いを求めて

座席クッションの効かない古びたバンに乗って悪路を2000km移動しながらの資料調査や様々な博物館の巡見などをとおして、これまで色々な「モノ」と「ヒト」に出会ってきました。これらの経験は間違いなく文化財研究者としての自分の背骨になっていると感じます。少しでもこのような出会いの素晴らしさを皆さんに伝えられたならこの上ない喜びです。

奈良大学文化財学科で文化財と語ろう

博物館の展示ケースの中、あるいは荒涼とした遺跡などで出会う「モノ」は黙して語りません。しかし、「聞く耳」を持っている「ヒト」には、その「モノガタリ」を饒舌に語りかけてくるものです。奈良大学文化財学科では文化財の宝庫である古都で存分に「モノ」と向き合い学ぶ、とても贅沢な時を過ごすことができます。なぜ、映像や書物だけではなく、そこまでして「モノ」にこだわる必要があるのかと問われると、すでに「聞く耳」を自分自身で育てた「ヒト」以外にその理由を簡単に説明することは大変難しいと感じます。文化財学科では、考古・美術史・史料・保存科学の専門家がこの「聞く耳」を育てるためのお手伝いをします。ぜひ、皆さんも奈良大学で「モノガタリを聞く耳」を育てていってください。そこには生涯を豊かなものにする感動に満ちた地平が見えてくるはずです！

ゼミ生からのメッセージ

ゼミでは、保存科学・博物館学に関する興味関心についてそれぞれ調査・発表し、質疑応答を行うことでお互いの研究を深めています。先生の柔和な雰囲気もあり、ゼミの雰囲気は和やかで質疑応答も気負い過ぎずに参加できます。

また、自由参加の校外学習では先生の「せっかく来たんだから」という言葉を皮切りに、多様な場所へフィールドワークを展開していきます。様々な場所へ目を光らせて向かわれる姿はまるで冒険に来ているようで、こちらちより一層楽しく学習でき、研究分野を問わず興味が湧いてきます。

文学部文化財学科4年生 大山 紗輝 さん (奈良女子高等学校出身)



ならぶ

Na Love

Nara
University
Bulletin

Vol.199

ならぶ Vol.199 ●発行年月:令和8年7月 ●発行:奈良大学 〒631-8502 奈良市山腰町1500 TEL. 0742-44-1251(代) URL <https://www.nara-u.ac.jp/> E-mail kouhou@nagaki.nara-u.ac.jp ●編集:奈良大学入部広報センター



奈良大学
NARA UNIVERSITY

南都名所図屏風(本学所蔵)



学業表彰

「学業表彰式」が執り行われ、表彰状と副賞が授与されました。4年生は3月19日(木)卒業式にて、各学科ごと教員からお祝いの言葉が贈られました。1～3年生は3月24日(火)令和館にて、今津節生学長からお祝いの言葉が贈られました。

令和7年度は各学年、各学科から5名ずつ合計120名が選ばれました。受賞者一覧は次の通りとなります。



奈良大学では、特に優秀な成績を修め、人物・識見に優れていると認められる学生に「学業表彰」として、学内外において他の模範とするに足る社会貢献、奉仕を行い、社会的評価を得た学生個人又は学生団体に「社会貢献表彰」として、課外活動において優秀な成績を挙げ、本学の名譽を高めた個人又は学生団体に「課外活動表彰」としてそれぞれ表彰を行います。令和7年度においては、次の通り学生個人及び学生団体を表彰しました。

学部・学科		1年生	2年生	3年生	4年生
文学部	国文学科	間々田 美月	福西 珠穂希	石原 奈緒	岩井 佑奈
		米山 蓮	根本 和虎	下久保 雅	菌 正輝
		坂口 楓乃	泉 愛海	桂木 駿	中須 健人
		滝澤 希美	新井 ゆり	藤川 亞也	山田 絢音
		濱田 みさき	岡本 美姫	木下 加菜	井西 彩心
		太田 悠斗	戸谷 穂高	本元 凜太郎	竹内 翼
	史学科	千田 葵夏	清水 悠蘭	西原 こころ	荒木 かなう
		今村 杜彩	下濱 穂乃華	関矢 隆汰	細川 海音
		野々上 美月	牧田 華奈	宮脇 かな	千徳 ことり
		児玉 壮翼	近藤 伽菜	谷村 涼渚	米川 慧
		重富 あずさ	佐藤 結楽	有賀 大地	小峠 輪空
		三好 月渚	有馬 優貴	小野 祥太郎	前田 泰平
文学部	地理学科	梶原 花音	垣内 健吾	寺尾 康佑	笠松 直斗
		江藤 由奈	石川 柊也	宮本 朋幸	牧 晃太郎
		野本 翔太	佐々木 智紀	今岡 友哉	西谷 孔明
	文化財学科	福本 雫	天本 愛子	西川 絢梨	青木 ふみ
		高木 瑞季	碓井 颯季	石原 萌那	進藤 久慈
		高木 麻央	村松 早紀子	大山 紗輝	杉浦 咲希花
社会学部	心理学科	橋本 風生	稲垣 真白	安野 彰真	西谷 漸
		中井 静乃	南部 真佑	潘 梓桐	米橋 咲
		石橋 由有	森田 藍稟	上中 悠矢	山村 陽平
	総合社会学科	山垣 結衣	柴田 莉奈	岩藤 妃名	髙田 銀一朗
		土橋 叶芽	西浦 美空	植谷 はるの	竹中 大悟
		上坂 颯大	牛田 奏美	小林 拓登	西本 穂奈
	総合社会学科	下村 愛璃		松田 桂風人	泉岡 稜青
		井上 虎丸	石橋 侑大	堀 真也	藤下 幸
		南 大地	那波 春哉	恵比須 怜緒	罗田 喜一
		水本 悠太	塩谷 淳	大上 加恋	葛 予杰
		平本 真大	中筋 光翔	矢部 ほのか	上田 秀信
		古川 丈翔	中川 綾美	虎井 優佳	谷川 颯太

※空欄は、学生本人の希望により氏名未掲載としています。

(敬称略)

課外活動表彰

1月14日(水)に学長室において「課外活動表彰式」が執り行われました。令和7年度は課外活動表彰として学生自治会執行委員会と少林寺拳法部が表彰されました。表彰理由はそれぞれ次の通りとなります。



学生自治会執行委員会表彰理由

昭和44年奈良大学の開学以来、学生生活の向上のため、課外活動団体の統括、学生大会の運営、大学当局との交渉等、大学と学生の橋渡し役を果たしてきました。また、近年はオープンキャンパスで来校した高校生の相談対応や「新入生交流会」の司会進行など新入生支援に大きく貢献してくれました。これらの活動が課外活動表彰に値すると認められました。



少林寺拳法部表彰理由

昭和48年5月の創部以来、厳しい鍛錬に取り組み、礼節を重んじる精神を培い、健全な学生文化の醸成にも大きく寄与してきました。令和7年度においては第76回奈良県民スポーツ大会(少林寺拳法奈良県大会)へ出場・入賞、また、2025年少林寺拳法全国大会「単独演武の部」(女子部門)への出場も果たし、大学の名を全国に広く知らしめ名譽を高めてくれました。これらの功績が課外活動表彰に値すると認められました。





体験講義

「国文学の世界—万葉びとの衣装—」を開催!!

国文学科では「体験」を重視した学びをモットーにし、毎年「本物」に触れる機会や、「奈良ならではの学び」を得る機会を作っています。それによって知識を、より立体的なイメージへと転換することができるからです。

2026年度は5月26日(火)に、古代衣装研究家・山口千代子氏のご協力のもと「国文学の世界—万葉びとの衣装—」と題し、ファッションショーと奈良時代の衣装・万葉歌の解説を行いました。山口千代子氏は、奈良国立博物館での解説ボランティア活動をきっかけに古代衣装を考案・創作なさり、講演活動を全国各地で行っています。その復元衣装は、全国の博物館や資料館、自治体などで万葉文化の顕彰と普及に貢献しています。

今回、50着の万葉びとの衣装をお借りし、また着付けやメイクなどに10名のスタッフのご協力を得てファッションショーを実施しました。国文学科の学生(21名)や教員(3名)が天皇や親王、貴族や女官など万葉集で「大宮人」と呼ばれる人々の衣装を身にまとい、大学構内を歩きました。「天平の風」「万葉の香」を感じる華やかな時間でした。

また衣装を教材として、国文学科の鈴木喬先生が古代衣装や万葉集の服飾の歌の解説も行い、古代の文化や万葉歌について学びました。国語の教科書にも取り上げられる額田王の

あかねさす^{むらさきの}紫野行き^{しめの}標野行き^{のもり}野守は見ずや^{そでふ}君が袖振る(巻1・二〇番歌)

((あかねさす)紫野の中を行き、標野の中を行って、野守は見ているではありませんか、あなたが袖を振るのを。)

「袖を振る」とは、どのような行為なのかなど、学生が身に着けた衣装を通じて学ぶことができました。

今回大きな特徴は、ファッションショーの後、希望者を募り、簡易的な衣装体験を行ったことです。実際に体験をすることもあることながら、衣装を身にまとい(万葉びととなり)、万葉集の講義を聞く。こんな贅沢な授業は、他にありません!



文学部 史学科

奈良県山添村で 22回目の 古文書調査を しました



奈良大学文学部史学科では、2026年3月5・6日(木・金)の2日間、山添村教育委員会のご協力により、22回目となる古文書調査をおこないました。調査には、教員6名に加え、1年生から3年生にいたるまでの学生有志のべ41名が参加してくれました。

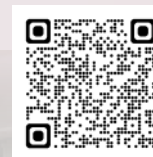
今回の調査で整理したのは、山添村葛尾と北野の個人蔵文書とやまぞえ小学校文書です。やまぞえ小学校文書には、教科書類のほか、「学校改築要領」や戦前のアルバムなど、山添村の近代教育に関する基本史料が多数残されていました。また、「波多野村報」や春日尋常高等小学校発行『郷の光』など、貴重な機関誌もありました。

個人蔵文書でとりわけ興味深いのが大量の御札類です。どこの御札かわからないものも多く、かつ年代も不明なのですが、吉野・大峯山(奈良県)、熊野本宮(和歌山県)、伊勢(三重県)、津島(愛知県)、多賀(滋賀県)、金比羅(香川県)など広範囲にわたります。御札については概要の確認にとどまり、詳細な調査はできませんでしたが、膨大な量の御札が整理され、分析がなされれば、山添村の宗教環境について、さまざまなことが明らかになると考えられます。

調査は順調に進み、合計492点の史料整理カードをとることができました。歴史学という学問の基礎となる史料の調査・整理への参加は、参加学生にとって何ものにも代えがたい学びになったでしょう。また、調査当日は好天に恵まれたこともあり、昼休みには調査会場を出て、その周辺を散策し、景観を確認したり、現地に残る鎌倉時代の石塔やサンマイを見学しました。大学内ではできないような貴重な体験をすることができたと思います。

調査のようすについては、奈良大学の公式Instagramでショート動画も公開していますので、右のQRコードからアクセスしてご覧ください。

奈良大学の「地域課題解決型プロジェクト 奈良県山添村教育委員会との共同事業としての同村所在の歴史資料の調査と保全」を利用しておこなわれている山添村での調査は、今後も継続していきます。



公式Instagram



文学部
地理学科

地理学科で行われる 小巡検 (木村ゼミの例)



地理学科では、ゼミごとに小巡検(日帰りフィールドワーク)を実施しています。木村ゼミでは全学年のゼミ生を対象に、5月9日に大阪府豊中市で今年度第1回目の小巡検を実施しました。今回のテーマは「千里丘陵南端の自然環境と人々の暮らし」です。

阪急宝塚線曾根駅の南側には、約5mの高低差をもつ急坂が東西方向に延びています。縄文時代には、この坂の南側は海(河内湾)であったため、この地形は縄文海進期に形成された海食崖であると考えられています。この海食崖を境として、北側が千里丘陵、南側が大阪平野となっています。

過去の地形図を見ると、今回の対象地域では、大正末期から昭和初期にかけて宅地開発が進む以前、丘陵上にも水田が広がっていたことが分かります。室町時代以降、西側を流れる猪名川から九名井(「くめゆ」または「くめい」と名付けられた用水が引かれ、生活用水や農業用水として利用されていました。この用水は、途中を流れる千里川の下を、当時すでにサイフォンの原理(伏せ越し)を用いて横断していたそうです。現在では、この用水の役目はほぼ終わり、水量は少なくなっています。

南北に延びる能勢街道と、西へ向かう伊丹街道の分岐点に位置する岡町は、戦前には「北摂一の繁華街」とよばれることもありましたが、現在でも大規模な商店街が地元の人々で賑わっており、豊中市役所や保健所、警察署などの公共施設も集まっています。

また、1975年には、桜塚の高級住宅街に、煉瓦造りのアメリカ風パーティーフーズ店が開店しました。これがコンビニエンスストア、ローソンの1号店です。今回の巡検では、お店のご厚意により「1号店記念プレート」も見せていただきました。

地理学科では2年生からゼミに配属されるため、2年生にとって今回は初めての巡検参加となりましたが、学年を超えた交流ができました。

2年生になって木村ゼミに配属され、初めて小巡検に参加しました。事前準備として、学んだばかりのGIS(地理情報システム)を利用して現地の地図を作り、当日はそれを見ながら約3時間歩きました。現地では地形や水文、歴史的な街道や寺社、都市の構造、経済活動といった、幅広いテーマを学ぶことができました。特に、岡町・桜塚商店街は、古くからの商店や飲食店とスーパーマーケットが共存しており、地域経済の活性化に貢献していることを実感しました。

文学部地理学科2年生
前田 来瑠美さん
(大阪府立河内高等学校出身)



文学部
文化財学科

10年間継続してきた 学生たちとの 文化財調査

～住民とともに地域に眠る文化財をまもる



現地現物主義をモットーに掲げる文化財学科では、分野にかかわらず、授業以外に現地で実物にふれる機会を大切にしています。

11年前の、本学卒業生からの依頼をきっかけに、兵庫県北部の新温泉町において学生たちとともに、とあるお堂の天井板絵などの保存のための調査がはじまりました。調査は、大学の夏休みを利用して、お堂の横の公民館に泊まり込みで1週間から10日間程度の日程でおこなっています。板絵の劣化を確認するため、毎年、すべての板絵の記録写真を撮影するとともに、肉眼では見にくくなってしまった部分を確認する目的で赤外線撮影をおこなったり、板絵がおかれている環境を正確に把握するため年間を通して温湿度環境を測定したり、ときには分析装置を使って非破壊で板絵に使われている絵具の材質調査をしたりしてきました。

これまでの調査で、ほとんど知られていない緑色の絵具の使用を確認したり、お堂が今から320年以上前に建てられたことをつきとめたりしてきました。調査成果を地域住民に伝える報告会や小中学校での出前授業などもおこない、地域の方々との親交も深まっています。近年では、地域住民によるボランティアガイドがはじまっていて、調査成果などを小中学校での出前授業や観光客向けの案内などで伝えていただいています。

これまでに調査に参加した学生はのべ90名を超えました。参加する学生は毎年変わっていきますが、卒業生の中には、参加をきっかけに地域の文化財をまもる大切さとおもしろさに気づき文化財専門職に就いた人も10人を超えています。

この活動を継続してきたことにより、これまでほとんど知られていなかった地域に眠る文化財を知ってもらい、みんなでまもっていきこうという機運が高まっていることはたいへんうれしいことです。

地域のため、学生たちのため、そしてなによりも文化財のために、なっている地道な活動を今後も続けていくつもりです。



私は1年生の時からこの調査に参加しています。一見とても地味に見える記録写真を撮ることの大切さや、たいへんさを知りました。またこの2年間、住民の方々とともに文化財をまもるための活動をすることができて、地域の文化財をまもる「輪」が広がってきているのを実感することができました。地域の文化財保護では、私たちはあくまでもきっかけづくりやお手伝いをしているにすぎず、主体は地域の人であることを学びました。

文学部文化財学科3年生
碓井 颯季さん
(長野県岩村田高等学校出身)





社会学部 心理学科

Again による若者たちの生きる意欲を 支え合う

Againは、心理学科太田ゼミの学生を中心としたサークルであり、若者の自殺予防を目的としたゲートキーパー活動支援を続けています。その活動は、“感情”から“科学”へ引き上げる試みです。太田仁教授の援助行動研究を基盤に、自分をあきらめないでもう一度前を向くために、理論と実践の断絶を乗り越えることを目指しています。その実践は6年目を迎えた『CoCoCafé』に結実しており、奈良市の多くのシニアのみなさまが継続的に来場し、笑顔と活力を得ています。同時に学生も、人との交流を通じて生きる意欲の再生を実感しています。実際に悩みの最中にある、大学生のデータを分析した発表を通して、他大学の先生や利用関係者と共にその科学性を担保しています。このようにAgainは「人はなぜ支えられ、なぜ支えを拒むのか」という社会心理学の核心となる問いに、理論と実践の両面から迫る取り組みです。

その問いを現場の最前線で検証するために、NPO法人国際ビフレンダーズ大阪自殺防止センターからのお申し出による連携講義が実現しました。このセンターは、自殺を考えている人々、苦悩状態にある人々に、感情面での支えを提供しているボランティア団体です。今回は、スタッフの西中元様から、現場で人々の声を受け止め続けてきた体験について話していただきました。学生たちは、「なぜ人は助けを求められないのか」という、援助要請行動の中心的な問いについて疑問を投げかけ、話し合うことで、今後の活動に向けての示唆を得ていました。

今回の講演から、相談相手に「自殺」について尋ねるか、そもそも「自殺」は止めるべきものなのかなど、支援の形は人それぞれで、正解はないことを学びました。私は「自殺」は止めるべきもの、止めたいものであると考えます。少しでも自殺者数を減らすために『CoCoCafé』などの実践活動を通して学んでいきたいと思いました。

社会学部心理学科4年生
森廣 龍ノ介さん(鳥取県立米子西高等学校出身)



無言電話であっても、「待っています」と伝えて関わり続ける姿勢から、相手を決めつけずに寄り添うことの大切さを感じました。私は「自殺を防止する」というのは、自殺を考えるような状況を取り除くこととらえています。その人の背景や苦しさ目に向けての姿勢が重要だと感じました。

社会学部心理学科3年生
橋本 みなみさん(大阪府立みどり清朋高等学校出身)



社会学部 総合社会学科

教室を飛び出し、社会とつながる—— 「社会体験実習」のご紹介

実社会の多様な現場で実践的な学びを得る「社会体験実習」の活動をご紹介します。この実習の最大の意義は、実際の課題に向き合い、教室の中だけでは得られない社会で活躍する力や協働する姿勢を育むことです。昨年度、学生たちは5つの配属先で奮闘しました。



- **ヴァンパイア株式会社**: 大阪のゲーム会社で先輩たちとサークルを構築し、事業創出のワークショップに取り組みました。事業計画を作成し、社会における自己実現を探索しました。
- **株式会社明新社**: 奈良の印刷会社と防災をテーマに活動しました。もちいどのセンター街での調査や大学祭での防災ポーチ販売を通じ、災害への備えを伝える啓発活動に挑戦しました。
- **社会福祉法人あゆみの会**: 知的障害のある方の地域共生を目指す福祉施設で、手工芸や園芸などの活動をサポートし、多様な人々が共に生きるために何が必要かを学びました。
- **スペシャルオリンピックス日本・奈良**: 知的障害のある人のスポーツ活動を支え、競技会に向けた企画準備やボランティア募集など、大会を裏から支える運営業務に奔走しました。
- **バンビシャス奈良**: プロバスケットボールチームでスポーツ経営を学びました。ファンを増やす施策の提案やホームゲーム運営に携わり、スポーツを通じた地域社会への貢献を体感しました。

明確な正解の見えにくい実社会で多様な人々と意見を交わし、試行錯誤を繰り返した経験は、学生たちの今後の人生を支える力となるはずです。頼もしい表情へと成長した学生の歩みを、これからも温かく見守っていただければ幸いです。



私は今回の社会体験実習でバンビシャス奈良の活動に参加し、ファンエンゲージメント強化に取り組みました。この活動では、加藤社長の講義でBリーグの歴史やクラブ経営の実情を学びました。また、実際に試合を観戦したところ、試合後に観客がすぐに帰宅してしまうという状況に気づき、試合後も観客を楽しませる何らかのイベントが必要であると考え、試合後イベントの企画立案を担当しました。ピークエンドの法則や社会的証明を根拠に、抽選会やビンゴ大会などの施策を設計し、観客の残留率向上とリピーター獲得を目指す企画書を仲間と共に作成しました。これらの活動を通して、理論と実践をつなげる貴重な経験ができました。



社会学部総合社会学科3年生
那波 春哉さん
(奈良育英高等学校出身)

スクーリングがくれたもの

在学生 佐藤 良子 さん

ある日、偶然見かけた奈良大学通信教育部のサイト。子育てが終わり、趣味で全国の遺跡・古墳巡りをして

いる私にとって、考古学の専門的知識を身につけ活かすことができるチャンスだと即飛びつきました。

しかし当時は、コロナ禍真っただ中。一人きりの学びは思った以上にはかどらず、結局2年間で提出したレポートはほんのわずかでした。在学3年目、ついに対面でのスクーリングが再開されることになり、このことが私を大きく変えてくれました。

初のスクーリングでは勝手が分からずとても緊張していたことを今でも覚えています。そのような私の気持ちを察してか、大学の方が優しく声をかけてくださいました。教室に行く

と隣の席の方が積極的に話をしてくれて、それをきっかけに大学生活で初の友人ができました。先生の講義も楽しく分かりやすく、とても充実した3日間を過ごすことができました。



龍角寺岩屋古墳にて

通信教育部生
便り

奈良大学で、充実した「学び」の日々を過ごした4年間！

卒業生 島津 悟 さん

子どもの頃から歴史が大好きでした。歴史の資料集などは、隅々まで何度も繰り返し読むのでぼろぼろになっていたのを覚えています。将来は大学で歴史を勉強したい、それが子供の頃の私の夢でした。ですが、家庭の事情で大学どころか高校への進学もあきらめなければなりません

あれから40年以上が経ち定年が迫ってきた頃、人生であきらめたはずの「大学に行きたい」という気持ちがふつふつと湧いてきました。意を決して、57歳で高卒認定試験を受けました。そして翌年、58歳で奈良大学通信教育部に入学することができたのです。

それからは、勉強に明け暮れる日々でした。朝5時に起き、出勤までの時間、テキストを読みました。仕事から帰ってからも、深夜12時までテキストを読み、レポートを書きました。ですが、レポートの再提出が続いたり、また、何度も試験で不合格になり、4回目でやっと単位を修得できた科目もありました。思うようにいなくて落ち込むことも多々ありましたが、そんな時はスクーリングで出会った学友達が心の支えになってくれました。皆、年齢も様々ですが、お互いを励まし合った学友達との出会いは本当にかけがえのないものとなりました。

卒論には、地元の山の史跡から発想を得たものをテーマにしました。調査のために、何度も現地を訪れたり、地元の方や研究者の方に話を聞いたりしてテーマを突き詰めていくことは、この上なく楽しい時間でした。これこそ文化財学・歴史学の研究の醍醐味だと感じました。

「大学へ行きたい」という夢が叶い、大好きな歴史の勉強もできました。62歳で迎えた大学の卒業式は感慨無量でした。お世話になった皆様に心から感謝申し上げます。

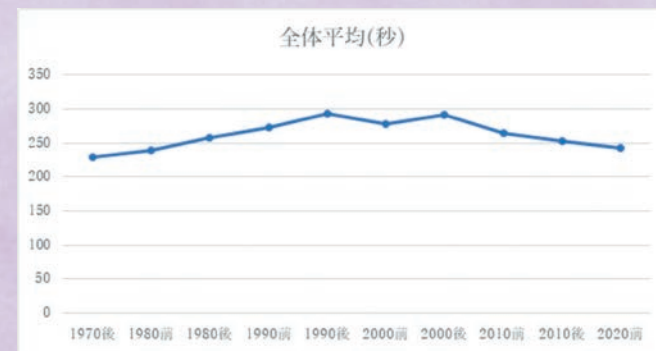


「卒業式後に同期の学友と(写真中央が島津さん)」

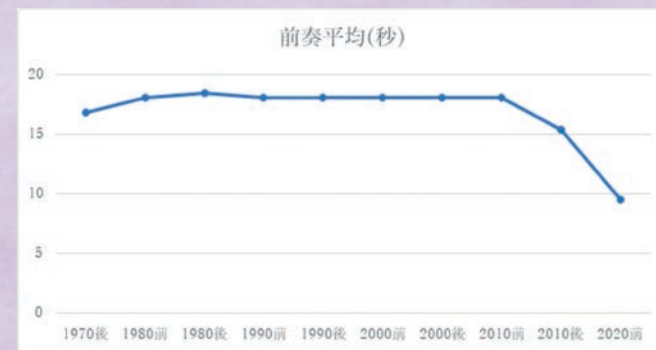
■ クローズアップ

卒業論文で 歌謡ヒット曲の 「短尺化」の検証を 実施

早坂 結音 さん(2026年3月卒業)
(当時社会学部総合社会学科4年生)
(奈良県立大淀高等学校(現:奈良南高等学校)出身)



全体平均(秒)「昔の曲も意外と短く、1990～2000年代の曲が最長」



前奏平均(秒)「前奏の時間は2010年代前半から急減した」

新聞各紙でも紹介されました。

- ▶毎日新聞(2026年2月12日)
- ▶産経新聞(2026年2月25日)
- ▶読売新聞(2026年3月1日)
- ▶朝日新聞(2026年3月5日夕刊)
- ▶岐阜新聞(2026年3月30日)
- ▶奈良新聞(2026年4月28日)

歌は世につれ…と申しますが、「タイパ」が喧伝される昨今、SNSやサブスクリプション(定額の聴き放題サービス)を通じた新しい音楽の聴き方が普及・定着するにつれて、じっくりと歌い上げてサビにもっていくような曲は廃れ、(途中で飽きられて切られないように)前奏を減らし、アピールするサビを前の方に持ってくるようになり、曲自体も「短尺化」してきたとよく言われます。しかしそれは本当なのでしょうか？

この疑問について卒業生の早坂結音さんは、歌謡ヒット曲の「短尺化」の検証を卒業論文のテーマに選び、1975年から実に半世紀のベストテン曲・計500曲を自分で全て聴いて、曲全体の長さ・前奏の終わる時間・サビが始まる時間を測定しました。その結果、確かに巷で言われているように、2010年代から曲は目に見えて「短尺化」し、前奏とサビは前倒しされてきていることを、実証的に明らかにしました(ただし、さらに昔の曲も今と同程度に短かった)。

この検証は、「タイパ」・サブスク時代における歌謡ヒット曲の変化を立証した、日本で初めての研究と思われますので、奈良県庁の文化教育記者クラブで記者発表を行いました。

先生からのメッセージ

秋になり、早坂さんが過去半世紀のベストテン約500曲を全部聴いて測定したと知って驚きましたが、出てきた結果を聞いて2度びっくりしました。これは是非どこかに発表してもらわないといけないと直感しました。論文も学部生とは思えないほどしっかりしていました。

奈良県庁文化教育記者クラブで発表してもらったところ、思った以上に多くの記者に興味を持っていただきました。タイムリーなテーマと論文の優秀さの賜物ではありますが、記者一人一人の広範な世代のヒット曲が含まれており、懐かしさ呼び起こした面もあったでしょうね。



社会学部総合社会学科 尾上 正人 教授

1月 January

23日 学校法人創立100周年記念・日本女性会議2025樫原との連携事業として公開講演会「日本の始まりを生きた女性たちから現代女性へのメッセージ」を開催



1月23日(金)に本学の令和館で開催し、約250名が参加しました。この講演会では、日本古代史、民話、上代文学、女性医学といった異なる分野の専門的な知見をもとに、女性の姿をさまざまな角度から紹介し、男女共同参画の未来について考察する、奈良大学ならではの学際的な取り組みとなりました。

講演1は、寺崎保広名誉教授が

「光明皇后と聖武天皇」と題して、講演2は、高島葉子教授(比較文化学)が、「山姥に見る女性像(神話、昔話、童話)」と題して、講演3は、鈴木喬准教授(上代文学)が、「万葉集からみる女性像」と題して、講演4では、島本太香子副学長(公衆衛生学、産婦人科学、女性医学、男女共同参画)が、「現代と過去の女性のライフコースの違い(リプロダクティブヘルスの視点で)」と題して、それぞれ専門分野の立場から講演していただきました。

2月 February

24日 就活メイク講習会を開催しました！

2月24日(火)、令和館オープンプレゼンスペースにて「初めてでもだいじょうぶ！印象アップして就活に臨もう！就活メイク講習会」を開催しました。男子学生1名を含む14名の学生が参加し、就職活動に向けて印象アップのためのメイクスキルを学びました。

今年も資生堂ジャパン様のご協力のもと、スキンケアの基本からメイクアップの実践まで、プロのスタッフによるレクチャーが行わ

れ、学生たちは熱心に耳を傾けながら鏡に映る自分と向き合い、楽しみながらも奮闘していました。初めてメイクに挑戦した学生も、日頃からメイクをしている学生も、それぞれ自分に合ったメイク方法を学び、自信を持って仕上げることができました。

参加学生からは、「メイクの細かいやり方、表情の作り方などたくさん学ぶことができました。良い経験ができてよかったです」「今後、身だしなみを整える癖を身に付け、相手に印象よくできるように心がけていきたいと思いました」といった声が寄せられ、大変好評でした。男子学生もスキンケア、髪型など身だしなみを中心に講習を受け、就活準備への意識が高まった様子でした。



3月 March

19日 令和7年度卒業証書・学位記授与式及び大学院学位記授与式举行



令和7年度「卒業証書・学位記授与式及び大学院学位記授与式」を、3月19日(木)に本学講堂にて執り行いました。学歌斉唱の後、今津節生学長から、学部生・大学院生・通信教育部生のそれぞれの代表者に卒業証書・学位記が授与されました。

当日は、早朝まで降っていた雨も式典開始前には上がり、式前・式後には、卒業生の皆さんが学内の思い思いの場所で、同級生や後輩たちと語らいながら、学生生活の思い出を振り返る姿が見られました。

4月 April

2日 令和8年度入学式举行



令和8年度「奈良大学・奈良大学大学院入学式」を4月2日(木)に、本学講堂にて執り行いました。式では、開式の辞、学歌斉唱、今津節生学長による入学許可宣言と新入生代表者の宣誓の後、今津節生学長から新入生に向けて激励の言葉が贈られました。そして、浅川正美理事長から祝辞をいただき、在学生代表学生による新入生歓迎の辞と、雅楽研究会演奏の後に閉式と

なりました。

式終了後は、各学科の教室に分かれ少し緊張した面持ちでしたが、新しい大学生活に向けての希望に満ちた第一歩を踏み出しました。

4日 新入生交流会を開催

4月4日(土)に新入生を対象とした「新入生交流会」を開催しました。

出身地域別に分かれてテーブルを囲み、立食形式で食事をしながら新入生、在学生と会話を楽しみました。

最初の今津節生学長による挨拶で会場は大いに盛り上がり、後半の学生自治会執行委員会による奈良大学クイズでは歓声も多く上がっていました。

今年もたくさんの新入生に参加いただき、新入生同士、または先輩後輩で親睦が深まりました。



■ インフォメーション

■ 第20回「地歴甲子園－全国高校生歴史フォーラム－」告知

第20回「地歴甲子園－全国高校生歴史フォーラム－」の開催が決定しました。高校生の皆さんから地域の歴史や文化、地理、文化財、文学、人物、社会などに関する研究レポートを募集します。優秀賞受賞者は、奈良大学で発表していただくとともに、本学教員が解説する古都・奈良の文化財を巡る現地見学も楽しんでいただきます。応募締切は9月9日(水)です。審査結果は10月17日(土)に奈良大学ホームページの「地歴甲子園サイト」にてお知らせします。フォーラムは、11月28日(土)(研究発表会)・29日(日)(現地見学会)の2日間開催します。また、研究発表会の様子はYouTubeでライブ配信し、終了後も動画として公開いたします。詳細については地歴甲子園のホームページ(<https://www.nara-u.ac.jp/forum/>)をご覧ください。



地歴甲子園サイト



■ 近刊紹介 ～本学教員の著書～

◆副学長 島本太香子 編著

『50のキーワードで学ぶ健康科学
人生100年時代を生きる基盤として』
丸善出版 2026年1月刊行



◆文化財学科教授 比佐陽一郎 著

『モノづくりから見る古代・中世の博多湾沿岸地域 保存科学調査が明かす
生産と流通』
勉誠社 2026年3月刊行



◆史学科教授 村上紀夫 著

『江戸時代の魔女裁判
豊田貢と文政京坂キリシタン事件』
創元社 2026年2月刊行



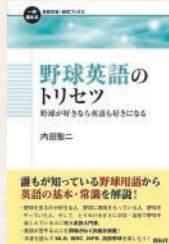
◆国文学科准教授 山田昇平 共著

『室町時代の日本語』
朝倉書店 2026年4月刊行



◆特命教授 内田聖二 著

『野球英語のトリセツ ― 野球が好きな人も英語が好きな人も ―』
開拓社 2026年4月刊行



■ 創設者・藪内敬治郎先生の命日墓参

学校法人奈良大学創設者・藪内敬治郎先生の命日である4月21日(火)に、浅川正美理事長、今津節生学長、堀川忠道校長、法人役員らが藪内先生のお墓参りをしました。この墓参りは1981年より毎年、藪内先生のご遺徳を偲んで行われています。



附属高等学校

新入生に向けた部活動紹介

4月9日(木)に新入生に向けて部活動紹介が行われました。文化系16チーム、体育系18チームの各部の代表者が動画や実演など趣向を凝らして精一杯アピールし、入部者を募りました。参加した新入生は「入りたいと思っていた部活動があったが、今日の先輩方のプレゼンなどを聞いて、他にも興味がわいた部活動がいくつもあった。悩んでいます」と話していました。各部代表者の熱量が新入生に十分伝わった貴重な時間となったようです。今後、新入生は気になった部活動のようすを実際に見学したり体験入部をしたりして、正式に入部届を提出し、本格的な活動をスタートさせます。



附属幼稚園

年長組 春の遠足

年長組は春の遠足で、東大阪市にある「ドリーム21」へ出かけました。「ドリーム21」は、屋内型の大型児童館とプラネタリウムを併設した複合施設で、遊びや学びを通して子どもたちの感性や創造力を育むことを目的としています。この日は館内の「のびのび広場」と「たんけん広場」で活動しました。「のびのび広場」では、大型遊具やネット遊びに挑戦し、全身を使って元気いっぱい遊びました。続いて「たんけん広場」では、不思議な仕掛けの遊具に触れながら、科学の面白さを体験しました。活動後は屋外でおにぎりを味わい、友だちと楽しい時間を過ごしました。友だちとの関わりを深め、心も体も伸びやかに過ごすことができた一日でした。

